

1 交付金活用事業

※事業費・交付金額欄について、広域連携事業は駒ヶ根市分のみ掲載。

施策	番号	事業名	広域連携 (構成団体)	事業目的	事業費 (千円)	交付金額 (千円)	今後の方向性 (市の考え)	地方創生推進会議における意見等	評価検証 結果
地方創生 推進交付 金	1	中央アルプスを活かした観 光地再生プロジェクト	宮田村、 駒ヶ根市	通過型から滞在型の観光地へ移行し、経済が活 性化した地域を創るため、ジオパーク化・国定 公園化推進事業を中心に、インバウンド事業推 進や山岳地域と街なかを繋ぐ取組み等を進め る。	34,292	17,146	①ジオパーク化推進事業 事業見直しによる継続 引き続き国定公園化に向けた取組を進め るとともに、伊南DMOにおける観光資源 としてジオパーク認定に向けて進めてきた 事業内容の活用の検討を進める。	・国も日本版DMOの設立を進めて、外国人の 誘客を強く進めている。伊南DMOにおいても 地域資源の磨き上げをしていただきたい。	提案どおり (事業見直し による継続)
							②インバウンドプロモーション事業 拡充 プロモーションを通じて徐々にツアーも 企画されるなど誘客効果が出ている。H30 年度は、台中花博を通じてのPRが主とな るが、交流にとどまらず、積極的に効果的 なPR方法を検討するとともに、台湾以外 からの誘客施策も検討していく。		提案どおり (拡充)
							③アルプスの麓のまちづくりブランディン グの推進 拡充 おもてなし参加店舗の拡大(目標30店以 上)と、おもてなしWSを拡充させた周遊 部会の設立に取り組む。広報・PR部会を 設置し、HPやチラシの作成及び広報戦略 の展開を図る。		提案どおり (拡充)
小計	1事業				34,292	17,146			

施策	番号	事業名	広域連携 (構成団体)	事業目的	事業費 (千円)	交付金額 (千円)	今後の事業展開 (市の考え)	地方創生推進会議における意見等	評価検証 結果
地方創生 拠点整備 交付金	2	駒ヶ根シルクミュージアム ブランディング推進事業	駒ヶ根市 (単独)	養蚕業の歴史や文化を継承・発信する本施設について、交流人口のさらなる拡大と雇用創出を目的として、施設利用者数や各店舗の売り上げ増加につなげるため、展示空間の全面模様替えによる展示内容の魅力向上と、利用者の環境改善と施設改修による持続可能な施設運営を目指す。	36,617	18,308	絹のみち広域連携プロジェクト及び信州シルクロード連携協議会と連携しながら、リニューアルした施設の魅力を県内外に発信し誘客増加を図る。また、四季折々の魅力を高めるため、地域住民と協力し、彼岸花の植え付けなど周辺環境の整備を行い誘客につなげる。	・体験施設や直売所への国の支援事業を活用してほしい。	提案どおり
	3	駒ヶ根市交流促進センター (こまくさの湯) ブラン ディング推進事業	駒ヶ根市 (単独)	早太郎温泉郷の中核的な日帰り温泉施設として、新たな利用者ニーズに対応することを目的として、提供可能なサービスの拡大や来館者の利用環境改善、維持管理費の削減を図るなど、国内外の観光客に対して魅力あるサービスを提供するために全面的な施設の模様替えを行う。	57,500	28,692	改修を機に各種メニューや誘客イベントの開催、別館ゆうらく館の有効活用を行い、利用者の増加を図る。	・改修を通じて新しい客層が来て、従業員も意識して取り組んでおり、事業の効果が現れていると感じ評価できる。	提案どおり
	4	J O C A 移転に伴う市街地 活性化のための多世代・多 文化交流拠点整備計画	駒ヶ根市 (単独)	駒ヶ根市に本部移転する公益社団法人青年海外協力協会 (JOCA) と連携し、駒ヶ根市への新たな人の流れを作り出し、交流拠点を核に住民が活発に関わり合い、経済的にも活性化が図られる地域づくりに取り組む。	40,003	20,000	市民活動支援センターの利用者増加に向けた取組を行う。また、JOCAとの連携を軸に、こまがねテラスプロジェクト、国際交流事業など市街地での事業を展開する。	・新しい施設は開放的で、これからいろいろな人に使ってもらえるのではないかと。 ・JOCAが来たことにより住民自治の力がさらに試される。JOCAとともに課題に取り組み、応援していけるような地域の在り方が大事である。	提案どおり
小計		3事業			134,120	67,000			
合計		4事業			168,412	84,146			

2 寄附活用事業

施策	番号	事業名	広域連携 (構成団体)	事業目的	事業費 (千円)	寄附金額 (千円)	今後の方向性 (市の考え)	地方創生推進会議における意見等	評価検証 結果
まち・ひと・しごと創生寄 附活用事 業	5	中央アルプスを活かすため の山岳施設・登山道整備事 業	駒ヶ根市 (単独)	木曾駒ヶ岳と空木岳の間の縦走路のほぼ中間点にある無人避難小屋を、有人避難小屋に整備することで、登山者の利便性・安全性の確保及び環境保全を図るとともに、小屋周辺にテント場を新設し宿泊エリアを確保する。 さらに、登山道整備もきめ細かく進めることで、幅広い年齢層の登山者やリピーターの増加につなげ、中央アルプスの魅力を体験してもらえるよう受け入れ態勢を整える。	10,209	10,100	継続 檜尾岳避難小屋の有人化の推進及びテント場の新設に向けて取り組む。また、中央アルプスの魅力と安全性をさらに高めるため、登山道整備を引き続き実施する。	・安全性の観点から、事故や負傷者等の件数をKPIに設定するのはどうか。	提案どおり (継続)
小計		1事業			10,209	10,100			